

●日本最古の石積み堰堤…「オランダ堰堤」 (大津市)



「なんてきれいな水！」子どものみならず大人でも思わず水に入ってしまう。懐かしいほど優しく透き通った川だ。草津川上流の「オランダ堰堤」の辺り。その昔、平城京を造営するための木材は湖南アルプスと呼ばれている花崗岩のこの辺りの山々から伐り出された。さらに残った小柴まで燃料として採取されたため、山はすっかり荒れ山に。花崗岩の山は脆く、植生回復も難しい。木のない山はひと度雨が降れば土砂が流れ出す。流域は水害に苦しみ、草津川が流入する大川にも土砂が堆積し、水運航路に支障をきたしていた。そこで明治政府が造ったのがこの堰堤。オランダ人技師デレーケに調査を依頼。田辺義三郎が設計してアーチ形に石積みした堰堤が誕生したのだ。これを誰言うもなく「オランダ堰堤」と呼ぶようになった。竣工年が資料によって若干違うが一応、明治19年着工、22年竣工ということになっていて、石積み堰堤としては日本で最古である。

因みに、河川を守るためには治山が重要、ということを改めて肝に銘じたい。